

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970300273		
法人名	社会福祉法人星風会		
事業所名	星風会グループホームこすもす		
所在地	栃木県栃木市惣社町121-3		
自己評価作成日	平成26年7月20日	評価結果市町村受理日	平成26年11月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成26年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

内部研修や勉強会、委員会活動が活発です。それらの活動で認知症や介護福祉についての知識を深め、より良い介護ができるように努めています。また、防災についても月1回の避難訓練や、地域運営推進会議で地域の方を交えて訓練の様子をみてもらうことで、いざという時の協力体制を再確認できるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

栃木市東部の閑静な田畑に囲まれた場所に位置し、同一法人の敷地北エリアには、介護老人保健施設・デイサービス・訪問看護ステーションとグループホーム3ユニット・居宅介護支援センター・ケアハウスがあり、南エリアにも病院・介護老人福祉施設等がある。法人には8つの委員会があり、身体拘束廃止委員会では職員に意識アンケート調査を行い、結果を内部研修と学習会につなぎ、身体拘束しないケアについて職員同士が共通の理解を深めている。地域運営推進会議には、毎回地域の方や民生委員・駐在所員等が参加しており、質問や地域の現状を議題として有意義に開催されている。また、地域の方が自然に除草をしてくれたり、職員も日常的に挨拶を交わすなど、親しみやすくお互いが声をかけ易い関係となっており、地域におけるホームの存在感が感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に共通の理念を掲示し、誰もが目に届くようにしていることで、意識を向け実践するようにしている。また、理念に基づき品質目標を作成し、実践につなげる努力をしている。	理念は出勤時、事務所内に自然に目に入るよう掲示してあり、職員の意識付けになっている。さらに理念を基本として半期に一度職員全員で考えた品質目標がありそれに向けての実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の一環として地域の神社に参拝に出かけたり、公民館祭りへの作品展示に参加したり、小学校の運動会へ参加している。	自治会に法人として加入している。地域の神社での初詣や近隣小学校の運動会見学、公民館祭りに季節の飾り物を作成し展示、見学をするなどの交流が図られている。職員は地域住民と日常的に挨拶を交わし、地域住民から季節の果物の差し入れがあったり、除草をしてもらうなど、良好な関係が築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を利用して、事業所の認知症への取り組みや支援の方法等を伝えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回地域運営推進会議を開催し、地域の方々へ施設の取り組み等を報告、意見を聞くことでサービス向上に活かしている。	運営推進会議は家族代表・利用者・地域代表・地域駐在所・消防署員・民生委員2名・地域包括支援センターの参加で開催している。会議では事業や行事報告のほか、外部評価についての質問もあり、積極的に意見交換をしている。出された意見はサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターや民生委員に運営推進会議へ参加して頂き、事業所の実情を知って頂くことで協力関係を築けるようにしている。	地域包括支援センター等からの情報提供によりネットワーク推進会議のサポートに協力するなど事業所として協力関係強化に取り組んでいる。介護認定更新時には基本的に家族に行きかけているが、困難な場合は管理者が行き状況を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、内部研修や勉強会を随時行うことで理解を深めるようにしている。また、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに日常的に取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会が中心となり、身体拘束についての意識調査を行い、結果を内部研修や学習会で活用して、職員の理解を深めている。さらに言葉の拘束については、常に職員が利用するトイレに掲示して拘束のないケアに取り組んでいる。利用者の行動を確認して、見守りや声かけの工夫をしているため玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や勉強会にて知識を深め、話し合う機会を設けている。また言葉遣いについてのアンケートを行い、自分自身の意識付けを行っている。		

星風会グループホームこすもす

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修や勉強会にて学ぶ機会を設けている。また、必要時には関係者に情報提供する等して活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、疑問に思ったことは随時質問して頂く等して理解が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを実施し、その結果を全体会議や地域運営推進会議で伝えることで外部者へ表せる機会を設け、運営に反映させている。	アンケートにより要望や嗜好を把握し、毎月の全体会議の中や地域運営推進会議で報告、話し合いをしている。家族交流の場として敬老会にてお茶会を開催し、そこで出た話を参考にして運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会議が設けられ、意見交換や情報共有をしている。また、委員会活動も積極的にいき、意見の交換や提案を行っている。	毎月の全体会議には、可能な限りの職員が参加し、活発な意見交換を行って情報を共有している。またユニット会議では細部にわたり問題点などあげ、改善策等を提案し、意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得時には給与に反映されており、登用制度も設けられ努力や実績により推薦される等、向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際と力量に合わせ、法人内、法人外の研修に参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に所属し、勉強会等へ参加することで同業者と交流する機会を作っている。		

星風会グループホームこすもす

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学や、面会により不安や要望を確認して、ご本人様との信頼関係を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学や、面会、随時行う連絡調整にてご家族様が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の意向を確認しながら必要としている支援を見極め、必要に応じて他のサービス利用も含めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の生活歴を把握し、何ができるか何が必要なかを見極め、生活の中で出来ることは一緒に行い、暮らしを共にする者同士の関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活状況は面会時、こすもす通信等で常に報告し、お互いが安心できるようにしている。また、施設の行事参加を依頼する等、ご本人様を支えていくための関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・親戚等の面会や連絡を積極的に受け入れるほか、かかりつけ医や美容院等、今までのなじみの場所や人との関係が途切れないよう、ご家族様の協力を得ながら支援している。	利用者の要望により外出や墓参りなど、家族協力を得ながら支援している。家族の協力により馴染みの美容院に出かけている方もいる。また、時折友人が来訪する方もおり、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格を把握し、誰もが関わる事ができるように座席やレクリエーション時の対応に配慮し、孤立することのないように話題を提供する等している。		

星風会グループホームこすもす

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の施設へ異動した場合は面会に行く、ご家族様より介護関係についての相談等があった時には情報を提供する等してフォローができるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でのコミュニケーションから希望や意向を把握できるようにし、困難な場合はご家族様へも聞いてみる等して本人本位に対応できるようにしている。	日頃の会話の中から要望や意向を把握し、職員間で情報を共有している。把握が困難な場合は家族に確認している。食事形態等の希望にも、ホームの意向や方針を伝えながら、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実態調査や、ご本人様、ご家族様からの聞き取り、日々のコミュニケーションの中で今までの生活の様子やなじみの暮らし方を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌や生活支援記録に一日の過ごし方、心身状態を記録し、現状の把握ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催し、ご本人様、ご家族様、その他関係者の意見、職員の情報を確認し現状に即した施設サービス計画書を作成するようにしている。	本人や家族の「日中穏やかに過ごしたい」等の具体的な希望と職員の情報及び他関係者の意見をもとに、現状に即した介護計画を作成している。見直しは6ヶ月毎であるが身体状況により随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子は一人ひとり生活支援記録に記入し、職員同士で情報の共有に努めている。また、その情報も参考にし、施設サービス計画書に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の意向に沿えるように、サービスの情報を提供したり施設生活に取り入れることができるかどうかを話し合う等して、サービスの多機能化に取り組むようにしている。		

星風会グループホームこすもす

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出しての食事や買い物、地域の行事に参加することで地域資源を把握し、豊かな暮らしを楽しめるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時には通院に同行し、ご本人様、ご家族様の希望を尊重しながら情報を伝える等して適切な医療を受けられるようにしている。	かかりつけ医の特定疾患受診には家族に日頃の状況を情報提供書にして渡し、家族の付き添いで通院している。状態の変化時には、職員が同行している。法人の主治医により第1・3の木曜日に診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時、また体調が悪い時など随時情報や気づきを伝え、適切な受診ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こすもすでの生活状況をまとめたものを書面でお渡ししたり、面会に行き状況を把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調を見ながら、ご家族様と定期的に終末期の対応について話し合いを設けている。また病院や訪問看護とも連携をとり情報の交換をしている。	看取りの経験があり、看取りの体制が整っている。また、急変時のマニュアルがあり全体会議で検討、確認をしており、常に学習している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や勉強会を行っているが、実践力が全職員身につけているかの判断は難しい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回避難訓練を行うほか、地域運営推進会議等でも実施している。法人全体では、年2回総合避難訓練(1回は夜間)を行うことで、防災や非常時の対応について身につけるようにしている。	法人北エリアの総合避難訓練を年2回実施している。地域のホットラインに通報が行き6名の登録者が駆けつけてくれる。さらに、毎月、避難訓練を実施し避難口も毎回変更して誘導訓練をしている。職員は消火器訓練をしている。避難時の寒さをしのげる物品も確保され備蓄もある。	避難訓練も毎月実施され慣れてきていますので、年に何回か夜間想定訓練を試みることに期待したい。

星風会グループホームこすもす

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し方や内容に注意し、ご利用者様の前で他者のプライベートなことを話さないようにしている。また、言葉遣いについてもアンケートを行い自分自身について振り返る時間を設けるようにしている。	利用者の人格を尊重して、他利用者の話やプライバシーに関わる話には十分注意をしている。言葉遣いについても振り返る時間を設け、接遇研修を行い、学習している。個人情報記録は事務室を施錠して保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通じてご本人様の思いや希望を表したり、自己決定ができるように、お話を聞くように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の意思を尊重し、できる限り自由に過ごせるよう、希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の衣類を選ぶ際、必要であればお手伝いしている。また訪問美容や衣類の買い物に出かける等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事準備の参加が難しい状態だが、片づけや下膳はできる方には一緒に行っていただいている。また、行事食や手作りおやつの際には、調理に参加できるように工程を工夫している。(ホールで行うなど)	献立や食材は業者に依頼し、調理は職員が行っている。4月から職員は利用者と一緒に食事を摂りながら会話と見守りを行うようになった。また、「こすもす食堂」と称して行う、行事食(ラーメンや鍋等、利用者の希望による)やおやつ作りを利用者も楽しみながら買出し・準備等に参加出来るよう工夫している。利用者は片付け下膳を職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は記録し、不足の場合は栄養補助食品や個人の好みのもを提供する等して対応している。水分補給は毎食時、10時、15時の他、夜間や入浴後等も随時行っており、希望時にはいつでも提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方には声掛け、介助が必要な方には食後見守りにて口腔ケアを行って頂いている。		

星風会グループホームこすもす

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活支援記録に排泄状況を記録し分析、声掛け誘導を行っている。	職員は、生活支援記録簿の排泄パターンを把握し、利用者の行動に何気なく目を配り、声かけ・誘導を行っている。また、羞恥心にも配慮して、さりげなくパットを渡すなど自立に向けた支援を行っている。夜間はリハビリパンツやパット対応の方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を行い、記録してパターン把握に努めている。ラジオ体操への声掛けの他、随時水分補給を行う等、体調を管理に努めている。また、必要時には、医師へ相談し内薬での調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の意思を尊重しながら概ね1日おきに入浴をし、ゆっくり入れるよう一人ひとりのペースに合わせている。気分によって入りたくない時は無理強いせず、次の日に再度声をかける等、個別に支援している。	入浴は週3～4回利用できるようになっており、職員はゆったりと楽しめるよう支援をしている。身体状況や希望によって、時間帯の変更や翌日にするなど、意思を尊重しながら個々に添った支援をしている。季節の香り入浴も取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の健康状態や状況に合わせ、休息できるように促している。生活リズムが崩れないように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の内服内容がいつでもわかるように個人の一覧を服薬チェック表にファイリングしている。内服変更時や臨時薬のある時は、業務日誌、服薬チェック表に記録し申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、食器拭き、掃除等を一緒に行っている。また、集団レクや個別レクを行い、楽しみを持って頂けるようにしている。嗜好品は希望があればお預かりし、随時提供できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	敷地内の散歩のほか、月1回以上は外出支援として買い物や食事に出かけている。また、ご家族様にも協力をしていただき外出できるようにしている。	週に1・2回法人エリア内の散歩をしたり、こすもす食堂の食材の買い物に出かけている。また、家族の協力を得て外食を楽しむ等の支援をしている。庭でスイカを育て、収穫して味わうことの楽しさにも取り組んでいる。	

星風会グループホームこすもす

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは職員が管理しているが、買い物に出た時等、その方の力に応じて商品を選んで頂いたり、支払いを行ってもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員がかけ、その後ご本人様に家族様とお話ができるように支援している。また、手紙については、届いたものをお渡したり、必要時には、ポストに入れに行く等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、湿温計により温度と湿度をチェックして快適に過ごせるようしている。また、季節を感じられるように、その時期に合わせたご利用者様の作品や手作りの品を掲示している。	共用のリビング壁面には利用者協同で作成した季節の飾り物や個別の作品が飾ってある。中庭からの採光で程よい明るさと適温になっており不快を招くようなものは感じられない。また、片隅には座りやすいソファが配置され安堵感が得られるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で一人になれる場所はないが、気の合うご利用者様同士が思い思いに過ごせるように、その都度席をその都度移動したり、空いている場所に誘導する等して工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や寝具を持参していただき、落ち着いて過ごすことのできるように工夫をしている。	居室は畳であるが殆んどの利用者が個別のベッドや使い慣れた寝具・家具の配置をしており、さらに、職員が毎日朝食後に掃除の支援をして、居心地よく過ごせるよう工夫している。居室担当者は季節の衣類の交換や家族から生活用品の買物依頼があった場合も支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様の部屋がわかるように絵を飾る等、目印をつけている。トイレ等は、字を大きく掲示することで見やすく、また、手すりを設置し歩く時の安全性を高めている。		